

【解説】 終わり近くで「マスメディアに対する統制は世界的な現象である」と言っているように、ここで説明されているような事情は、わが国も同様であろう。一見、対立しているかのような新聞（大新聞）も根は同じであるという我々の印象を、この記事は裏付けてくれる。

「メディアは非常に強力な武器である。それは容易く物事を操作することができ、無実の人を有罪に、罪ある人を無罪にすることができるだけでなく、一国を戦争に追いやることもできる。メディアに雇われている人たちは、おそらく脅迫され、賄賂を使われたり、ゆすられたりして、陰謀団の言うことを聞いているのであろう。ほとんどの場合に、真のジャーナリストとしての探究は脅かされ、ニセモノと偏向報道が生き残る。」

このウェブサイトを読んで下さっている方々ならおわかりのように、今この時期、もし新聞記者が全く自由に書くことを許されるならば、おそらくどんな小説よりも面白く、感動を与え感謝されるような、しかも「裏の取れる」記事がいくらかでも書けるであろう。昨今の「新聞離れ」を考えても、これは悔しいことに違いない。記者のみならず、メディア関係者一般に対して同情を禁ずることができない。

水瓶座新時代「メディア」

メディアに対するコントロールは常に「暗黒陰謀団」の計画の一部であった。メディアの統制は、人々の考え方の統制に等しい。次は、1917年2月9日の米国議会の記録からの抜粋である――

「1915年3月、J. P. Morgan 関係者、鉄鋼、造船、火薬製造関係者、および支配下の組織が、新聞界の有力な人物12人を集めて、合衆国で最も影響力ある新聞と、そのうちで合衆国の日刊紙の方針を広くコントロールできるだけの、十分な数の新聞を選び出させた。

これら12人は、179の新聞をまず選んだ。そして除外方式によって、全国の日刊紙の一般の方針を統制する目的に必要なだけの新聞を残すという仕事に取り掛かった。彼らは、最も大きな25の新聞を統制できれば、それで十分に目的は達せられると結論した。この25新聞については異論がなかった。そこで、これらの新聞の国家的・国際的な方針について合意を買い取るために、密使が送られた。そして合意が達せられ、これらの新聞の方針（政策）がカネで買い取られ、月ごとに支払われることになった。各新聞に対して一人の編集者が送り込まれ、軍備、軍事問題、金融政策、その他、買い取った者の利害を左右すると考えられる、国家的・国際的な性質の諸問題に関して、

正しく監督し、情報を編集するようにさせた。」——米国会議員 Francis Oscar Callaway 記

彼らの支配を容易くするために、暗黒陰謀団はできる限り多くのニュース・メディアを整理統合して、権力の集中を図った。

一つの最近の例は、2011年、新しい会社である Digital First Media が設立され、Journal Register Co. と MediaNews Group という、2つの最も大きなチェーン報道機関を彼らが経営することになったことである。両方ともすでに、アメリカの東部と西部にそれぞれ多くの新聞を所有している。

ジャーナリズムとメディア一般の、高いレベルで仕事をしてきた Ben Bagdikian は、著書 *The New Media Monopoly* (リンク) で、メディア複合体の統制について、多くの知見を述べている。

1983年から2004年の間に、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、書籍、音楽、映画、ビデオ、通信社、報道写真などを含む、大多数のアメリカのメディアを支配下に置く法人の数が、50からたった5に減少した。

彼のウェブサイト benbagdikian.net によれば——

Time Warner, Disney, Murdoch's News Corporation, Bertelsmann(ドイツ), Viacom (前 CBS)、これら5法人がアメリカの新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画撮影所のほとんどを所有している。

彼らが政策(方針)と社会的諸価値を創り出しているのだ。

賭けられているのは、アメリカの民主主義そのものである。重要なニュース、ものの見方、市民が知っていなければならぬ情報、投票者、こういったものを持たない国家は、民主的な権利を危険にさらしている。

ベン・バグディキアンの著『新しいメディア独占体制』は、こうした支配的なメディアの巨人たちのこと、いかに彼らがカルテルのようにお互いに協力し合うか、誰が経営しているのか、どうしてこんな陰険なやり方ですべてがこうなったのかを説明している。それは例えば、ある世代全体に、一般大衆は電波をもっているが、ニュースキャスターを持ってはいないことを忘れていることに気付かせる。

暗黒陰謀団によるマスメディア支配計画は、いわゆる「モッキングバード作戦」(Operation Mockingbird) が、Deborah Davis の著書 *Katharine the Great: Katharine Graham and her Washington Post Empire* (1979) によって暴かれたときに明らかになった。この計略はさらに、アメリカの情報局員 E. Howard Hunt による覚書 *American Spy: My Secret History in the CIA, Watergate and Beyond* (2007) において、また Hugh Wilford による *The Mighty Wurlitzer: How the CIA Played America* (2008) において、明らかにされた。

「モッキングバード作戦」は、米中央情報局 (C I A) による、1950 年代に始まったメディアに影響力を振るうための作戦であった。

Allen W. Dulles が 1953 年後、C I A 長官であったとき、C I A の発表する情報が、メディア通信社すべてによって引用されるようになったが、これらの報道ネットワークの中には、わかっている記者もわかっていない記者もいた。

Ramparts は、それ自体 C I A の援助を受けていたアメリカの政治的・文学的雑誌だが、この雑誌は、C I A が密かに「全米学生協会」(N S A) を資金援助していたことを知っていた。1967 年 3 月、この秘密の資金援助を暴露する「N S A と C I A」というタイトルの記事が発表された。

1976 年に行われた国会公聴会によって、C I A が、ほとんどの主流メディアの出版物の編集者や記者を買収していたことが発覚した。1976 年発表の国会報告によれば――

「C I A は現在、世界中に、C I A に情報を提供し、時には密かな宣伝活動によって人の意見を左右しようとする、数百の外国人個人からなるネットワークを張り巡らせている。これらの個人たちは、C I A に対して、外国の大量の新聞や雑誌、通信社やニュース提供者、ラジオやテレビ局、商業本出版社、その他、外国のメディアへの、直接のアクセスを提供している。」

それはどのように働くか

メディア複合体を整理統合することによって、暗黒陰謀団は、人々に与えられる情報の種類を、ほとんど完全に統制することができる。ニュースは、彼らが要求し、人々に聞かせてもよい情報だけに限って、与えられるように管理される。このことは毎日のテレビ番組のみならず、ハリウッド映画のような映画産業にも適用される。

例えば、90年代初めに、“Exosquad”という、抑圧に対して自由を求めて闘う、政治的・人種的な内容のすばらしいストーリーのアニメ・シリーズが、キャンセルされるということがあった。その理由は、多くの独立したプロダクション会社が、自分自身の内容を見せたい大きなネットワークによって時間帯を奪われ、この番組が不利な時間へと移動させられたため——と説明された。

メディアは非常に強力な武器である。それは容易く物事を操作することができ、無実の人を有罪に、罪ある人を無罪にすることができるだけでなく、一国を戦争に追いやることもできる。メディアに雇われている人たちは、おそらく脅迫され、賄賂を使われたり、ゆすられたりして、陰謀団の言うことを聞いているのであろう。ほとんどの場合に、真のジャーナリストとしての探究は脅かされ、ニセモノと偏向報道が生き残る。

“Outfoxed: Rupert Murdoch’s War on Journalism”という、映画製作家 Robert Greenwald による 2004 年のドキュメンタリーは、Fox News Channel とそのオーナー、ルーパート・マードックを批判し、このチャンネルは偏った見方を奨励し推進するために利用されていると論じた。このチャンネルの偏向ぶりは、その「公平でバランスのとれた」という公言に矛盾しており、このドキュメンタリーは「フォックス」のニュースは消費者詐欺にずっと関わってきたと主張している。

BBCは信用できるだろうか？ BBCの記者を25年間やってきたRobin Aitkenは、その著書で、BBCが非常に強く偏った内部文化をもっていること、また、あるグループや見解が好意的に扱われ、他のグループが冷淡に扱われるような場合、その問題の取材が一方に偏することを指摘している。

メディアが利用されて悲惨な結果をもたらした一例をあげるなら、それはメディアがアメリカ国民に、外国の地で戦うことは愛国的な行為であり、祖国の自由のために戦うのだ、という考え方を売りつけたときである。現実には、それほど真理から遠い考えはなく、そうした戦争は単に騙しであり謀略にすぎなかった。彼らは何度も他国の主権を犯し、暗黒集団の計画を進める手助けをしてきたのである。

利益と権力の結合

利益追及はこのゲームの表向きの名である。このシステムの根底にあるのは、利益の名において支配する権力を創り出すことだ。

多くの人が知らないでいることだが、メディア複合体はまた、共有の株や不動産を通じて、

他の産業の大小さまざまな法人と関係をもっている。これは銀行の場合とよく似ている。このことは、我々がひとたび、そのすべてが、ピラミッドの頂点にいく少数者に権力が集中する構造になっていることを理解するならば、驚くようなことではない。ピラミッドの中にピラミッドがあり、ヒエラルキーの中にヒエラルキーがある。

相互絡み合い (interlocking) 理事 (重役) 会というのは、ある法人の理事会のメンバーが、多数の法人の理事会に出席する慣行のことである。この理事会の形式が、少数者に権力を集中させる仕掛けになっている。それは確かにフェアな慣行ではない——そこに関わる会社は互いに独立することができず、また、消費者の犠牲において利益を統制する傾向があるだろうから。

次は、fair.org に見つけた 2009 年 8 月付の論文 (リンク) の概要である——

9 つの大手メディア法人とその主要な報道媒体についての、最近の公正な研究は、それらが 6 つの異なった保険会社につながっていることを明らかにした。その 9 社とは、Disney(ABC), General Electric(NBC), CBS, Time Warner(CNN, Time), News Corporation(Fox), New York Times Co., Washington Post Co.(Newsweek), Tribune Co.(Chicago Tribune, L.A. Times), それに Garnett(USA Today)である。研究対象となった 9 社のメディア法人のうち、5 社が、それぞれ一つの保険会社と重役を共有しており、2 つの保険会社——Chubb と Berkshire Hathaway——が、一人かそれ以上のメディア法人の重役を自社の代表としていた。

この研究はさらに、これらのメディア法人と、Eli Lilly, Merck, Novartis といったいくつかの大きな製薬会社との、またがり^{まじり}を明らかにした。後者の利益もやはり、もし独立システムであったならば、おそらくマイナスに影響するであろう。研究対象の 9 つのメディア法人のうち、6 つが、少なくとも一つの製薬会社の利益を代表する重役をもっていた。実は、CBS を除くすべてのメディア法人が、保険会社か製薬会社のどちらかと、理事 (重役) 会を通じて関係をもっていた。

(メディアと保険/製薬会社の個別の関係の表があるが、省略する)

マスメディアを支配しているリーダーたちは——銀行とメディア複合企業の間には、重要な意味をもつ相互絡み合い理事会がある以上——銀行を支配している人々でもある。他の部門をも同時に支配するこれらわずかの人々が、「エリート階層」であり「闇の陰謀団」である。彼らは、時には競争しているように見えるかもしれないが、実は手を組んで、利益だけを追及するように見せかけて、世界制覇という彼らのアジェンダを達成しようとしている

るのである。

マスメディアをコントロールする人々は、「外交問題評議会」(CFR)あるいは「ビルダーバーグ会議」メンバーの一部を占めている。CFRは主としてアメリカで、「ビルダーバーグ」は主としてヨーロッパで工作している。そして彼ら自身、ナチスあるいはシオニストの、より高位者に仕える者たちである。

インターネット

インターネットが今日ある姿になったのは、偶然によるものであって、計画されたものではない。それはもともと、軍の目的のためにある種のコンピューターをつなぐプログラムだった。ところが軍がその使用を独占もせず秘密にもしなかったので、これが大学で使われるようになった。世界中の大学が、お互い同士を結ぶためにこれを使い始め、それは急速に成長した。そして、そこにはどんな形のヒエラルキーもなかったので、中央の制御によって組織化することは難しくなった。

それは、まだ完全な検閲と統制下でない人々によって広く用いられている、唯一の機能する手段である。

中国はインターネットを規制し検閲することに成功した。そしてそれこそ、西洋の暗黒集団が成し遂げようとしているものである。「ストップ・オンライン海賊行為法」(SOPA)とか2012年の「サイバー安全保障法」は、猛烈な反対を受けた。人々は、海賊行為とは表向きで、究極的には政府がインターネットの検閲をしようとしていることを、当然ながら知っていた。

彼らが躍起になってそれを試みるのは、人々に知ってほしくない情報が、インターネットでは自由に手に入るからである。彼らの世界制覇計画を含むこの情報は、彼らの権力にとって脅威なのだ。もしインターネットがこの世に現れなかったならば、おそらく今ごろ暗黒陰謀団は世界を支配し、人々は、自分が個人の人権を失いつつあるのに、どうすることもできないことに気付いたことだろう。

討議のために

マスメディアに対する統制は世界的な現象である。それは「メディア・オーナーシップの集中」(リンク)と呼ばれている。「グローバリゼーション」とは、この物事の一極集中を指す言葉である。世界統治の一部として創られたこの概念セットは、「国際的」と呼ばれ、

その影響力は“西洋化”と呼ばれる。彼らが国際的なテレビ・チャンネルで用いる言葉は英語である。これは彼らが、彼らの「一つの世界政府」で使うことに決めている主要言語なのである。

多くの人々が自由への脅威に気付き始めており、メディアの統合強化を阻止し、メディア改革を推し進めようとする、Free Press（リンク）のような組織が存在する。

ここに、世界政府計画を正直に明らかにしている、ある言葉を引用しよう――

「私たちは、ワシントン・ポスト、ニューヨーク・タイムズ、雑誌「タイム」、その他、その管理者たちが私たちの会議に出席して下さり、ほとんど40年にわたって、思慮分別ある彼らの約束を尊重して下さった、偉大な刊行物に対して、心から感謝を申し上げます。…これらの年月の間、もし私たちが白日の下にさらされるようなことになっていたら、私たちは世界に対する私たちの計画を進めることはできなかったであります。しかし世界は今、ますます進歩発展し、一つの世界政府を目指して前進する用意ができています。知的エリートと世界的銀行家の国家を超えた主権は、過去の世紀に試みられた国家的自動決定（national auto determination）より、確実に好ましいものであります。」

これは1991年6月、ドイツのバーデン・バーデンで行われた、世界的エリート「ビルダーバーグ・グループ」の年次集会で、**デイヴィッド・ロックフェラー**が、ワシントン・ポスト社主のCatherine Grahamと、出席していた他のメディアの有名人たちを前に行った演説の一部である。